

「全港湾第55期中央労働講座報告」

全港湾東北地方ひたち支部

執行委員 川崎 広太

全港湾第55期中央労働講座に参加した。

鈴木誠一委員長を初めてとする「格式高い中央労働講座」に参加でき、全港湾の重みを感じたとともに、今回の学びや出会いは、今後の人生のかけがえのないものになった。

講座の内容もさることながら、今回も、「人」から多くの学びを得た。毎回、全港湾の活動に参加して思うのは「誰もがやさしさに溢れている」こと。講座の時も、中央本部の皆様、きちんと目を見て話しをしてくれる。

鈴木委員長からは、終始人柄の良さを感じた。全体への発信から、見えないところでの気遣いや思いやりのある言葉、全港湾の成り立ちについても、歴史やその時にあった事象を交えて、背景が分かりやすいように講話して頂いた。終戦前後の港湾労働者の扱い、現代でも抱えるであろう機械化、当時のコンテナ船の話。交渉をすることでの立場や条件の改善。勝ち取ってきた内容から環境など、多くのことを学べた。

鈴木副委員長の組織・運営の話では、不当労働行為を時事ニュースを用いてわかりやすく。対等な労使関係の構築や犠牲心、エリートリーダー像などを学べた。直接会話は出来なかったが、緊張している私たちに笑顔で接してくれた。

畠山副委員長からは、知見が広がることや偉大さを学べた。言うことにすべて納得できる。気持ちがある。思いがある。考えも素晴らしい。講座の内容も、進め方も、私たちに惹きつける力があり、魅了される。男の強さを感じた。労働基準法は知らないことが多く、自分自身の無知さに落胆した。しかし、労働基準法は覚えるものではなく、是正することが大事。あくまで今の知識ではなく、「改正」の必要さを感じた。よく学生の頃から、憲法第二十五条の話を目にするが多かった。当時は、何も考えずに、ただただ、覚えていただけであったが、全港湾での話を聞き、「こういうことだったのか」と経験から感じるが多かった。

松永書記長からは、「これからはお前らが時代をつくっていくんだぞ」と。まさにその通り！上がやらない、下が言うこと聞かない。そんなことはどうでもよい！俺たちが築いていくんだ！会社や世の中は、変わろうとしない、自分たちの欲ばかり。なぜそんなことするのか。いや、そうではない。会社や世の中がそういう悪い方向に考えるのは勝手。私たちは私たちが正しいと思う方向に進んでいくことが大事。人のせいにならない。会社に戻ると、いつも温度差を感じ困惑する。大抵の人は、自分たちが考えることではないから、会社がやるから。そんなことはどうでもいい。人の考え方はそれぞれ違う。意見が通らないこともある。個性もある。「権利を主張する前に義務を果たす」。とりあえずやってみる！のが大事であることを、仲間たちと過ごして肌で感じた。

松田書記局の存在も大きい。レクリエーションでの怪我人への対応と気遣い。みんなできるときの気配りや周囲の目配り。改めて勉強になりました。

イケメン二人との部屋での楽しい雑談や誰も得しないイジリ、第三班メンバーのそれぞれの役割を担う責任感と団結力。級長の副賞に一体となって沸いた共に参加された仲間たち。業務も生活もみんな違えど、同じ全港湾。誰一人としてやさしくない人はいませんでした！第55期メンバー、最高でした！初めて会う仲間、久しぶりに会う仲間、「みんな会社を良くしたい！」「家族や仲間と楽しく過ごしたい！」この想いは全国共通であることを改めて認識した。こんなにも、全港湾の仲間は、人想いであり、やさしさに溢れている。これからも全港湾、全国の労働者同士、手を結び、団結して「闘う全港湾」という思想に、共に頑張っていきましょう！